

INGING RACE REPORT

SUPER FORMULA 2020

Round. **3** スポーツランドSUGO

予選

決勝

10月18日(日)

天候:晴れ・曇り コース状況:ドライ

前戦のワンツーフイニッシュは、昨シーズン新しいマシンSF19に非常に苦しんだチームの士気を高めてくれ、この菅生ラウンドを気分よく迎えることが出来た。今般の開催の舞台となる菅生は、木々の葉も色づき始めすっかり秋。設営日は空が透き通るほどの秋晴れとなったものの、走行の始まった土曜日は朝から冷たい雨に見舞われ、気温は初冬の寒さにまで下がった。

#38 石浦宏明 予選11位 決勝8位

#39 坪井 翔 予選13位 決勝13位



土曜の走り出しのウェットコンディションは、今季新しくなったウェットタイヤの確認が十分にでき、またタイムも速かったことから我々にとって非常に有意義な結果をもたらした。ドライコンディションに変わった午後の走行では、感触が悪くないものの合わせこみを最後まで確認することができず、セッションが赤旗で終了してしまっ

た。迎えた予選、決勝日、前日よりも気温は5℃ほど上がり秋晴れ、昨日とは打って変わったコンディションで迎えた。ドライコンディションを最後まで確認できないまま迎えた予選、多少不安が残るままスタートした。今回もQ1は、2グループに分けてアタックが始まった。

Q1 Aグループの坪井からスタート。2度目のアタックで2番手タイムをマーク、文句なしでQ2へ進出。Bグループとなった石浦は最初のアタック7番手をマーク、セッション中、他車のクラッシュにより赤旗中断があり残り時間3分で再開。石浦はポジションをキープし、2台揃ってのQ2進出となった。

Q2 Q1まで順調であった2台だがここへきて速さを失ってしまい、石浦11番手、坪井13番手と残念ながらQ2敗退となり、これまでの良い流れは一旦断ち切られてしまうことに。決勝までの短い時間の中では、失速の原因がわからないままではあるものの、これまで決勝はどうにかまとめて来た実績もあるので、その力を信じてレース臨んだ。



○決勝

決勝レースは、53周（190.058km）。午後になると若干陽が陰り曇り空が広がった。決勝を控えいよいよウォームアップ走行が始まると、コースオフしてしまうクルマがあり、赤旗となった。コース整備に時間を要し、その後のスケジュールが10分ディレイとなった。

14時54分、グリーンフラッグが振られると53週のレースがスタートした。早速1コーナーでバランスを崩したクルマが他車にヒットしコースアウトが発生。荒れるレースを予感するもわれわれの2台は影響を受けず無事。石浦10番手、坪井は14番手と1つポジションを落としてオープニングラップを終えた。

今回は、スタートから10周を過ぎるとタイヤ交換の義務を消化できるレギュレーション。坪井は、12周でルーティンのピット作業を消化する為ピットに向かい14番手でコース復帰した。

ピット作業後のアウトラップでコースオフしたクルマがあり、そのクルマの回収の為、20周を消化したところでセーフティーカーが導入された。石浦は、このセーフティーカーラン中に、ピットに向かいピット作業を敢行。その際に作業に手間取り25秒ほどタイムロス。しかし、SC中にピットに入ったクルマの中では最後尾になるはずだったが、SCの入った位置の関係でポジションのロスはなくなり、9番手のままでコース復帰となった。

28周目でレースが再開。しばらく膠着状態が続く。石浦は、ガソリンも減りタイヤも温まりクルマの状態が良くなって来た42周、前車をとらえて8番手。このままチェッカーを受け、3ポイントを獲得した。

一方坪井は、前車に近づくとダウンフォースが抜け、追い抜くに至らず…それを何度か繰り返す我慢のレース、大幅なポジションアップには結びつかず。SC中の16番手から地道にポジションを上げ13位でフィニッシュした。

コースの特性の違うサーキットとは言え、前戦と全く違ったストーリーで展開した今回のレース。ノーポイントで終わるところをどうにか3ポイントを獲得することが出来た。ワンデー開催では、予選で失敗すると決勝までの時間も短く、そのままの流れとなってしまう状況から、次戦は変化に恐れることなく、セッティングの変更を思い切るなどして、状況を打破する勇気を持って戦いたい。



ドライバー #38 石浦 宏明

「昨日の走行では、ウェットコンディションで走る事が出来たのは今シーズン初めて。このレースの為にという訳ではなく、今シーズン、新しくなったウェットタイヤのデータ取りとしてチェックができ、フィーリングも良く上位のリザルトを得ることが出来ました。午後のドライに関しては、きちんと確認できないまま終わり、今日のぶっつけの予選を迎えてしまいました。そのせいかタイヤの熱の発動に苦戦し、グリップを全く引き出せず予選で下位に沈むこととなりました。今週もワンデー開催の為、予選から決勝まで時間がなく、セッティングを大幅に変更することがなかなかできない為、そのまま頑張ろうと思いついに決勝に臨みました。

決勝は、いつも自信があるのですが、今回は走行しているとペースが上がらず周囲に抜かれてしまう状況。無線で指示を仰ぎ最善を尽くしましたが、とても苦しいレースとなってしまいました。

こんな時に良くないことも重なるのか、タイヤ交換のミスもあり、25秒くらいかかってしまいました。その時点でセーフティーカーが入ってからピットに入った組の中では、ぶっちぎりで最下位の予定でしたが、セーフティーカーの入った位置で得をした為、9位のままで済みました。しかしそうすると、速いクルマが後ろに来てしまうリスクがあると危惧しましたが、タイヤがあたたまつて燃料が軽くなって行くと、他車をパスでき8位に上がりました。結果的に3ポイントを獲得できました。

今回、調子が悪く本来ならノーポイントに終わっても良いレースだったことを考えると、次のレースではいろいろチャレンジしたいという気持ちになりました。次回は、恐れずにトライして3点と言わず沢山ポイントを獲りたいです」

ドライバー #39 坪井 翔

「昨日は、ウェットもドライも調子よく、今日の予選Q1までそれが続き、Q2まで進んだというのに、そこで途端にグリップがなくなってしまいました。ウォームアップしている段階から全く感触が変わる不思議な現象でした。

決勝は、菅生は例年荒れるレースとなるのですが、速さがあれば自分にもチャンスが来ると思って臨んだところ、いざ走ってみたらペースが非常に悪く歯が立ちませんでした。自分たちにとってはセーフティーカーのタイミングがとても悪く、またタイヤ交換したあとのアウトラップが異様に遅く、ラップ遅れになってしまいました。

そこが今回の敗因です。菅生に対して良くなっていたと思っていたのですが、レースペースもアベレージで1秒くらい遅く、改善しなくてはいけない部分が沢山出てきて、結構辛いレースとなってしまいました。悪い点がたくさん見つかったので、似ている特性のサーキットは今後はないのですが、その部分に対して今後対策を練り、やり直したいと思います」



監督 立川 祐路

「昨日のウェットからの走りだしは、とても良いと思っていたのですが、ドライになって今ひとつということで、2台とも今日の予選になってからはクルマのフィーリングが良くなかったです。坪井の方が少し予選は良かったのですが、Q2で原因不明の失速で、結果、予選は後方のグリッドになってしまいました。

厳しいスタートになりましたが、決勝でどうにか挽回したいと考えていました。しかし、予選と決勝の間に走行時間がない事から、それを改善するだけの時間もなく、決勝のペースも苦しくなりました。今週は、前戦の岡山とはコース特性も違うため、良い流れは維持できず打って変わって厳しい戦いとなりました。次戦、必ず取り返せるようにまた頑張りたいと思います。応援ありがとうございました」



RESULTS

正式決勝結果（上位10台）

Pos	No	Driver	Type	Car	Time/ Behind
1	1	N.キャシディ	TOYOTA/TRD 01F	VANTELIN TEAM TOM'S	1:08'11.981
2	20	平川 亮	TOYOTA/TRD 01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	3.974
3	5	山本 尚貴	HONDA/MTEC HR417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	11.895
4	16	野尻 智紀	HONDA/MTEC HR417E	TEAM MUGEN	20.759
5	18	国本 雄資	TOYOTA/TRD 01F	carrozzeria Team KCMG	24.172
6	3	山下 健太	TOYOTA/TRD 01F	KONDO RACING	25.520
7	64	牧野 任祐	HONDA/MTEC HR417E	TCS NAKAJIMA RACING	26.173
8	38	石浦 宏明	TOYOTA/TRD 01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	34.571
9	14	大嶋 和也	TOYOTA/TRD 01F	ROOKIE Racing	39.143
10	6	福住 仁嶺	HONDA/MTEC HR417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	39.798
13	39	坪井 翔	TOYOTA/TRD 01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	48.359